

令和 2 年 6 月 26 日現在

機関番号：87101

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2019

課題番号：25770250

研究課題名（和文）幕末における海外文化の収集活動と翻訳について

研究課題名（英文）Gathering of Foreign cultures and translation in the late Edo period.

研究代表者

上野 晶子（Ueno, Akiko）

北九州市立自然史・歴史博物館・歴史課・学芸員

研究者番号：50455565

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費） 2,300,000円

研究成果の概要（和文）：Nederlandsch Magazijn（マガゼイン）を研究の中核として、その翻訳書及び古賀謹一郎による読書録を分析した。具体的には、マガゼインの項目及び掲載ページをデータベース化し、古賀及び蕃書調所旧蔵本にみられる書込みなどを追加した対応表を作成した。国内に残存する「和蘭宝函（蘭人日本之記）」を確認し、その原文である「JAPAN」（Nederlandsch Magazijn 1839年）との比較をおこなった。マガゼインを底本とする史料を分析し、蕃書調所による「官板 玉石志林」の翻訳作業の過程を考察した。古賀謹一郎による日誌及び蔵書目録を調査した。

研究成果の学術的意義や社会的意義

「蘭学」から「洋学」への転換期において、ショメール『日用百科事典』を翻訳した「厚生新編」の編纂からオランダ啓蒙雑誌の翻訳へと移行したことは、事典による「知識」よりも雑誌や新聞などの最新の「情報」が重要視されたことを意味している。本研究ではデータベース化による数量的データの分析や、オランダ語原文との比較を通して、蕃書調所におけるマガゼイン翻訳事業の実態や「玉石志林」編纂過程を具体的に示すとともに、古賀謹一郎の関わりについて明らかにした。

研究成果の概要（英文）：I have studied Nederlandsch Magazijn, Nieuw Nederlandsch Magazijn their translation, and Koga Kinichiro's record. 1)I made database of Nederlandsch Magazijn, and added writings which were founded in the Koga old collection and the Tokyo National Museum collection to database. 2)I analyzed materials based on Nederlandsch Magazijn, and considered the translation process of Kanban Gyokuseki Shirin by Bansho Shirabesho. 3)I researched Ranjin Nihon No Ki (Oranda Hokan), which was translation of 'Japan' (Nederlandsch Magazijn,1839) and compared the original and translated text. 4)I researched Koga's diary and catalogs.

研究分野：人文学

キーワード：Nederlandsch Magazijn マガゼイン 和蘭宝函 古賀謹一郎 玉石志林

様式 C - 19、F - 19 - 1、Z - 19 (共通)

1. 研究開始当初の背景

従来、蘭学は18世紀中頃の安永年間における『解体新書』の翻訳事業に象徴されるように、医学を中心として始まり、文化8年(1811)の幕府による「蕃書和解御用」の設立、「厚生新編」の編纂により、「公学」として認められたと考えられている。

これまでの研究では、「厚生新編」は対外的危機意識を背景に始められた事業とされている。しかし、「厚生新編」自体の内容はシヨメール『日用百科事典』から医学や実学などを中心に有益な海外文化を翻訳したものであり、対外的危機の対応策とは直結するとはいえない。また、「公学」の契機としての位置付けだけが重要視され、「厚生新編」について原本との比較や内容の分析が詳しくおこなわれていない。

「厚生新編」編纂事業は約30年にわたり継続された大事業であり、幕末期には蕃書和解御用が天文方から独立した洋学所(後に蕃書調所、洋学調所、開成所へ改称)へ引き継がれ、軍事学・殖産興業技術中心に転化し、蘭学から「洋学」へと移行したとされている。組織編成後、蕃書調所ではオランダの啓蒙雑誌 *Nederlandsch Magazijn* (1834-1845) 及び *Nieuw Nederlandsch Magazijn* (1846-1856) (以下マガゼイン) を翻訳し、「官板 玉石志林」を刊行したが、これは「厚生新編」の系譜を引く事業であると考えられる。

このマガゼインについては、「官板 玉石志林」や蕃書調所頭取であった古賀謹一郎の「度日閑言」の原本として紹介されているが、「厚生新編」の研究と同様、この雑誌の翻訳事業や内容の検討についてはほとんどおこなわれていない。また、古賀自身の語学力は疑問視されており、具体的な関わりについての研究もみられない。

そこで、マガゼインを基盤として古賀謹一郎の海外文化への関心を考察することで、この雑誌の翻訳の意義や、「百科事典」の翻訳から「雑誌」の翻訳へと移行した意義を考察する必要があると考えた。

2. 研究の目的

本研究は、マガゼインその翻訳書及び古賀謹一郎に注目し、(1)蕃書調所におけるマガゼイン翻訳事業に至る知的背景、(2)18世紀の百科事典翻訳から19世紀のマガゼイン翻訳という「知識」から「情報」への翻訳事業の転換、(3)マガゼインと翻訳書の比較分析から、幕末における海外文化の収集活動の実態と海外に対する意識について考察することを目的とした。

3. 研究の方法

本研究では、マガゼインとその翻訳書及び古賀謹一郎を中心に分析するため、主に以下の史料を対象とした。これらの史料をデータベース化し数量的データの分析やオランダ語原本と翻訳史料の比較をおこなうこととした。

- (1) *Nederlandsch Magazijn* (1834-1845) 及び *Nieuw Nederlandsch Magazijn* (1846-1856) (マガゼイン) (宮内庁書陵部・東京国立博物館所蔵)
- (2) 「和蘭宝函」(宮内庁書陵部・国立公文書館・東京大学図書館・東京大学史料編纂所・国立国会図書館・京都大学附属図書館富士川文庫所蔵)
- (3) 『官板 玉石志林』(明治文化研究会編『明治文化全集』7、日本評論新社、1968) 及び「月刊志林(調所教授方譯目)」(早稲田大学図書館所蔵)
- (4) 古賀謹一郎関係史料として「謹堂日誌鈔 一」(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫所蔵)、「古賀家蔵書目録」(慶應義塾大学図書館所蔵)、「謹堂日誌 卷三十五」(慶應義塾大学図書館所蔵)、「度日閑言」(国立国会図書館所蔵)

4. 研究成果

- (1) 1834年から1856年までのマガゼインに掲載されている5,998項目の記事について、項目名・ページ数を入力したデータベースを作成し、研究の基礎とした。宮内庁書陵部及び東京国立博物館が所蔵するマガゼインを調査し、貼紙・書込みなどを上記データベースに追加した。宮内庁書陵部所蔵マガゼインは古賀謹一郎旧蔵本とされており、ほとんどの項目に古賀の筆跡による貼紙がみられた。この貼紙は記事の邦題が書かれたもので、見出しの役目をしていると考えられ、その一部には翻訳担当者名や目印などが追記されている。また、東京国立博物館所蔵マガゼインのうち1855年に挿入された「月刊志林用マガゼイン分配記」を確認した。
- (2) 「和蘭宝函」はマガゼインの別名で、複数の機関に写本が現存している。このうち、宮内庁書陵部が所蔵する「和蘭宝函」は二巻から構成され、1834年本から1846年本までの一部の項目名、「日本之記」上下、「支那人の大惑」ほか地誌関係の記述がみられた。他の機関が所蔵する史料では、「日本之記」のみが記されており、「蘭人日本之記」とされたものもみられた。これはマガゼイン1839年の「JAPAN」を翻訳したもので、原文と比較し、一部誤訳がみられるもののほぼ忠実に翻訳していることを確認した。
- (3) 『官板 玉石志林』及び「月刊志林(調所教授方譯目)」(早稲田大学図書館所蔵)について、記事の邦題、出典、翻訳担当者などを入力したデータベースを作成し、上記(1)と

あわせて照合・比較し、『官板 玉石志林』への編纂過程を考察した。

- (4) 古賀謹一郎の関心を探るため、「謹堂日誌鈔 一」(慶應義塾大学附属研究所斯道文庫所蔵)、「古賀家蔵書目録」(慶應義塾大学図書館所蔵)、「謹堂日誌 卷三十五」(慶應義塾大学図書館所蔵)の調査及び「度日閑言」におけるマガゼインの出典を分析した。「謹堂日誌鈔 一」では、「厚生新編」の原本であるシヨメール『日用百科事典』を古賀が古臭い書物と評価していたこと、池田才八の勧めによりマガゼインを翻訳する着想に至ったことなどを確認した。

以上(1)から(4)の史料の調査やデータベースの入力はほぼ予定通り進んだが、オランダ語史料との比較や、各史料の詳しい分析、比較などは今後の課題とすべき点が多い。特に、オランダ語の原文と翻訳された日本語原稿の詳しい分析を通じて、翻訳箇所抽出の精度などを検証することにより、海外文化への関心や理解についての研究を深める必要がある。その一方で、マガゼインや日誌等の調査により、古賀謹一郎が蕃書和解御用から蕃書調所への組織編成や、『日用百科事典』からマガゼインの翻訳への移行、翻訳・編纂にも大きく関わっていたことが明らかとなったといえる。

5. 主な発表論文等

〔雑誌論文〕 計0件

〔学会発表〕 計0件

〔図書〕 計1件

<p>1. 著者名 松方冬子編、福岡万里子、パトリツィア・カリオティ、鈴木康子、松井洋子、イサベル・田中・ファン ダーレン、益満まを、上野晶子、勝盛典子</p>	<p>4. 発行年 2015年</p>
<p>2. 出版社 臨川書店</p>	<p>5. 総ページ数 336</p>
<p>3. 書名 日蘭関係史をよみとく 上巻 つなく人々</p>	

〔産業財産権〕

〔その他〕

-

6. 研究組織

氏名 (ローマ字氏名) (研究者番号)	所属研究機関・部局・職 (機関番号)	備考
---------------------------	-----------------------	----